

平成28年度第3回大阪府市文化振興会議 議事概要

とき : 平成28年6月27日(月) 13時から14時45分
ところ : グランキューブ大阪(大阪府立国際会議場) 8階会議室 801~802
出席委員 : 橋爪会長、中川副会長、上田委員、荻田委員、佐藤委員、山東委員、
壺井委員、藤野委員、若林委員

【概要】

1 会議の成立について

(事務局)

- ・委員10名中9名の委員の出席により、会議が有効に成立していることを報告

2 第4次大阪府文化振興計画、第2次大阪市文化振興計画の策定について(議題1)

(橋爪会長)

○これまでの会議において、委員から頂いた意見をもとに、部会(ワーキング)で議論を行い、府市それぞれの答申案たたき台を作成しました。事務局から説明をお願いします。

(事務局)

- ・事務局から、資料3-1、3-2について説明

(橋爪会長)

○ありがとうございました。これまでの間の議論を踏まえてたたき台をつくっておりますので、ご意見をいただくときには、この項目をこのように変えるべきではないかなど、具体的に頂戴できればと思います。

(藤野委員)

○「文化自由都市、大阪」について、細かいところからいえば、「文化自由都市」のあとに「・(中黒)」、「(カンマ)」など統一されていないので、統一したほうがいい。

また、「府民やアーティストなどの自主性、創造性が発揮されるよう民間の力を最大限に活かす」。ここだけを読むと、行政が文化振興の中心になると創造性が発揮できなくなるからこのようにしているような深読みもされがちだと思います。

例えば、「民間の力を最大限に活かし、市民やアーティストなどの自主性、創造性が発揮されるよう「文化自由都市、大阪」を目指していきます」、これだとニュートラルに読めるのではないかと思います。

○2点目は、市の7ページの「大阪が誇る文化力を活用した魅力あふれる都市」のところです。

「大阪の誇りでもある上方伝統芸能の保護・活用などとともに、国内外からアーティストが集まり音楽や演劇などさまざまな良質のコンテンツが創造されるなど」、全部が例示のようでいいのかもしれない

れませんが、私の感じでは、音楽や演劇などのパフォーマンスが良質のコンテンツと言えるのかどうか。コンテンツと言うと、例えば、漫画の作品のようなものを考えてしまうので、少し気になります。

○3点目は、府だけの問題だと思うのですが、14ページで「スポーツは、人間の創造的な文化活動の一つであり」とありますが、すぐ下の行では「社会を形成する上で、文化とともに不可欠なもの」とあり、文化概念は非常に多義的ではあるが、1つの文章に入ると混乱すると思う。避けるためには「スポーツは、人間の創造的な文化活動の一つである」これだけでいいと思います。

(橋爪会長)

○ほかの委員からご指摘がなければ、今の方向で精査していただいて、ほかにはいかがでしょうか。

(佐藤委員)

○市の重要業績評価指標のところですが、「なにわの芸術応援募金」の寄附件数、これはとても良い指標だと思いますが、その上にある助成金の申請件数、これを指標にするのは少しどうかと思う。

今の枠組みと5年後が全く変わらないのであれば、評価の指標として機能するのですが、助成金の審査、助成金のプログラム全体の評価を担当しているアーツカウンシルとしては、いつも、この助成金プログラムはこのままの仕組みでいいのだろうか。戦略的投資というからにはもっと変えたほうがいいのではないかと、常に議論をしているのです。

もし助成金の枠組みが変わってしまうと、比較できなくなりますし、これを評価指標にしておくのは助成金プログラムの改革を妨げることにならないかと思って、少し心配です。

(事務局) (大阪市)

○ご指摘はごもっともですが、いろいろと考えております中で、芸術文化団体が大阪にどれだけの件数で活動されるかということの評価を入れさせていただいたのですが、5年後の枠組みと一緒にどうかという観点ではわかりませんので再考させていただきます。

(橋爪会長)

○制度が変われば設定が変わるということでもいいかどうか、ですね。

(事務局) (大阪市)

○今後の制度自身が、どのような形になるかは見えておりませんので、ここに件数という形で出していけるかは、ご意見を踏まえ表現なりをもう一度考え直したいと思います。

(橋爪会長)

○ほかはいかがでしょう。

(中川副会長)

○文化が教育、福祉などに役に立ちますよという記述が双方にあるのですが、順番が、観光、まちづくり、教育、福祉と並んでいるケースと、教育、福祉、まちづくりと並んでいるケースがあって、これは統一したほうがいいと思います。

○また、市の資料15ページ「創造・鑑賞・参加など、能動的に芸術文化と関わる市民こそが創造活動を支える土壌であり」とありますが、鑑賞というのは、能動的な参加ではないのです。どちらかという受動的に参加します。鑑賞に至る前に、芸術というのは触れるというか、そのようなことをすることがまず大事なのです。

そのために、社会的少数者も含めた人たちに、公平かつ平等に、自然にアートに触れる機会を供給しましょうという、芸術へのアクセス権保障をまず整備しましょうと。それが整備された結果、創造的な行動に参画していく市民層が育つ、という段階論があるのです。これはその段階論を全て逆転させているのです。

本来、芸術文化はあらゆる市民に触れる機会が供給されるべきものである、ということが前提になっているにもかかわらず、マーケットのセオリーに任せていると、時間がないあるいは経済的余力がないという人たちはそこから排除されてしまうのではないですかと。

行政はそれを防止するための芸術供給をするべき、ということが社会のための文化の精神だと思うのです。それとは全く逆の書き方になっているなど感じました。

○その次の「文化振興における大阪市の役割」の文化施策の視点でも、やはりそうかと捉えてしまう。

これは多分、基本方向Cに「社会のための文化」を持っていくことと共通にされた結果、順番がこのようなになったのかもしれませんが、考え方とすれば前のほうに教育や福祉、医療だと思います。

(事務局) (大阪市)

○今のご意見を踏まえまして、「文化振興と市民の関係性」の辺りは修正を行いたいと思います。

(橋爪会長)

○ほかはいかがでしょうか。

(上田委員)

○府の6ページですが、下の3行で、「障がい者の創作活動や展示等を推進し」と入ってくるのですが、ここがどのようなつながりなのかと思います。

もちろん素晴らしいと思うのですが、例えば、子どもや高齢者など、普段、芸術や文化施設に近づくことが難しい人たちの創作活動を推進していく記述とまとめて書くのはまた違うのかなと、思ったのが1つです。

○次に、東京オリンピック・パラリンピックのことですが、目指すだけでなく、その後に何を残していくのか、踏み込んで見出し化された方がいいかと思いました。

○また、大阪市の「文化振興と市民の関係性」のところですが、「市民が鑑賞し、正しく評価する」と

という言葉が引っかかって、正しく評価するのは難しいというか、正しさではないのだろうと思いました。

(橋爪会長)

○障がい者のところは、「アーツカウンシルの審査や評価を踏まえ」という文があって、同じ段落に障がい者の記述となっているので、別段落であった方が、確かに良いかもしれません。

(事務局)(大阪府)

○ご指摘を踏まえ、段落を変えるなど誤解を招かないようにします。

また、オリンピック・パラリンピックについても、目指すとともに、継承していくという表現にしたいと思います。

(事務局)(大阪市)

○「文化振興と市民の関係性」については再度整理をしてお示ししたいと思います。

(山東委員)

○「文化振興と市民の関係性」の最後「芸術文化の振興のためには、市民の芸術文化への関心と理解を深めることが最も重要です」とあり、その通りではあるのですが、見ようによっては施策が深めさせてやるというような文言に見えかねないようなところがあって、先ほどの能動的にということがありますので、和らげた表現が、ということは私も思います。

○また、府の9ページ、上方演芸資料館だけが具体的に名前が挙がっており、少し浮いてしまわないかと気になりました。

○上方演芸資料館が、他の博物館と連携を進めていくことは良いことですが、他の部分との兼ね合いもみて、もう少し調整できないかと思った次第です。

○それと、「目指す」や「取組み」、「など」について、文字の表記上の統一をしていただけたらと思いました。

(荻田委員)

○上方演芸資料館はある意味で心配もあるものですから、このようにはっきりと書いていただいたほうが、私はありがたい表現だと思っていましたが、確かに全体の中でこれだけが特別に出てくるのは、少し不思議に思われる人がいるかもしれません。

(山東委員)

○もしかすると順番、つながりの問題なのかもしれません。文楽の話があり、それを広く発信していきます。「また」という形で「上方演芸の歴史を伝えていくため、上方演芸資料館において取組みます」などというような形にしていくと、違和感はなくなると思います。

(事務局) (大阪府)

○ご指摘を踏まえ、表現を変えたうえで整理させていただきます。また、平仄についても合わせるようにします。

(橋爪会長)

○ほかにはございませんか。

(壺井委員)

○いい悪いではなく、グラフィックで見ますと、府のレジュメのほうが見やすいのです。

市のものは、せっかくいいことを書いていただいているのに、少し見づらく思います。府の表現に統一されたほうが、もっと読みやすくなるような気がします。

(事務局) (大阪市)

○次回までに整理しておきます。

(若林委員)

○2点あるのですが、1点は市の15ページ、推進に向けてです。

「大阪市の役割」の、「市民文化政策」というのは、社会のための文化というところを、一言で「市民文化政策」とまとめられたと思うのですが、どのような政策のことなのか一般的にはわかりにくいように思いました。

○2点目は、府・市両方の「評価推進体制」のところの「そのためには」からの文章です。拠点の確保や運営体制の強化も必要ですが、何よりもアーツカウンシルの人件費の確保が不可欠です。

アーツカウンシルの委員になってわかったことは、予算の確保はもちろん、確保した予算の執行が、現状の体制では難しいのだということです。

予算の確保だけではなく、「人件費、予算の柔軟な執行の仕組み、拠点の確保等」と一言入れていただければ、未来につながるのではないかと思います。

(橋爪会長)

○「市民文化政策」という概念は、市議会などでは議論いただいているかと思います。ただ一般の人が初めて見て、唐突にこのような言葉が出ているように思いますので、注釈を入れないといけない言葉なのかもしれません。少し検討いただくようお願いします。

(事務局) (大阪市)

○修正をしたいと思います。

(橋爪会長)

○後半の指摘については。

(事務局) (大阪府)

○計画の性質上、人件費の記述をすることは難しいですが、ご指摘も参考にしながら、アーツカウンシルの強化に努めていきます。

(中川副会長)

○東京オリンピック・パラリンピックに向けたところで、市は、レガシーを残そうという記述を入れておられますが、レガシーを継承していくことを目指すと言い切る限り、どのようなレガシーを残すのか、方向性は書くべきです。

また、レガシーという概念はよく分かりませんが、残すものは仕組みであったり事業であったり、あるいは組織であったり、人間の集団であったり、いろいろなものがあると思います。レガシーと記載するのであれば、その辺を踏まえて分かるようにしてほしい。また、府と表現を合わせてほしいと思います。

(事務局) (大阪市)

○検討させていただきます。

(橋爪会長)

○基本的に、オリンピックは都市の催事なので、主催されている都市以外のレガシーというのは、具体的な施設がつけられるわけではないので、そのレガシーの部分とオリンピックが置かれていない都市の考え方とは違うと思うのです。

ただ、2020年に向けての取組みは一過性ではないでしょうという意味合いで、レガシーという言葉が入っているのだらうと思います。

市の書いている文案では「大阪らしい文化のレガシーをオリンピック後も次世代に継承していく」とありますが、レガシーの概念が定まっていないので、これから2020年に向けて作られた新しい文化を継続、継承していくという表現でも十分かもしれません。次回までの検討課題にします。

それでは、ほかにご意見がなければ、これまでのご意見を踏まえ、次回の会議において最終の答申案を取りまとめたいと思います。

なお、府市において、新たな都市魅力創造戦略を策定するため、現在「都市魅力戦略推進会議」において議論が行われています。私は、推進会議の委員にもなっており、文化振興会議の議論を踏まえ意見を述べたいと考えています。また、推進会議で出た意見で答申案に反映できそうなものがあれば、次回に報告をさせていただき、皆様との議論の上対応してまいりたいと思っておりますので、よろしく申し上げます。

(事務局) (大阪府)

○ありがとうございました。次回会議は、7月27日に開催させていただく予定ですので、よろしく申し上げます。

本日は、会議の円滑な進行にご協力をいただき、ありがとうございました。

— 以上 —